

研修会での質問

2025/05/25

こんな質問が出た。外野飛球を外野手が捕球しようとしたところ、打球がグラブからとび出し、すぐ近くにいたもう一人の外野手が地面に落ちる前に捕球したが、走者はタッグアップをどの時点で行えばよいのかというものであった。参加者に判断をゆだねて挙手をしてもらったら、打球が最初に、外野手のグラブに触れた時点でタッグアップは正規のものとなるという回答が圧倒的に多かった。さすがによく理解しているなと感心したが、では規則書の中にそんな記載があるのだろうか？そう問われると審判員の中には、困ってしまう人もいるかもしれない。競技者必携の問題からルールを記憶している人が多いのだろう。

時には、規則書のどこに記載があるのか、少し時間があるときに調べてみるのもいいかもしれない。

5.09 アウト a(1)【原注 2】 「野手がボールを地面に触れる前に捕えれば、正規の捕球となる。その間、ジャックルしたり、あるいは他の野手に触れることがあってもさしつかえない。走者は、……瞬間から、塁を離れてさしつかえない。」この……に答えがあるので一度見ておいてほしい。ただ、よくよく考えてみると、……の時点で塁を離れてもよいことにしないと走者は塁を離れることができなくなってしまうからである。つまり野手が完全補球をすることなくお手玉をしながら内野へ歩いてくれば、走者はタッグアップができないことになってしまうからだ。野球のルールに困ったときは常識で考えればたいいの事は解決しそうである。

もう一つ、2 ストライクの後の投球時に打者がバントの構えをしていたところ、投球が向かってきたので避けようとしたらバットに当たった打球がファウル地域に転がった。これはスリーバント失敗で打者アウトなのか、ファウルで2 ストライクからの打ち直しで良いかという質問であった。答えは勿論、2 ストライクからの打ち直しである。なぜなら、投球を避けようとしているのでバントをしに行ってはいないからだ。

音

2025/06/07

A級の練習ゲームでのことである。ボールカウント 2-2 からの投球を打者が打とうとしてやめた。そのとき「ボコ」という音がしてボールが捕手の前を転がって近くのファウル地域で止まった。球審の私はファウルをコールし、2-2 からの打ち直しとして「プレイ」をコールした。

「プレイ」をコールするまでのわずかな間、頭によぎったのは音が金属音でなかったので打者の手に当たったかのような音であったこと、打者は打とうとしてやめたが塁審にリクエストするまでもなくノースイングであった事（もしスイングしていた打者に当たったのであればストライクで三振ボールデッドである）、しかし打者は痛がる様子もなく、デッドボールをアピールすることもなかった。後でその打者に聞いたところグリップのそばに当たった時は「ボコ」という音がしますよと答えてくれた。なるほど勉強になった出来事であった。

珍しいプレイ

2025/06/08

走者満塁で、打者が右中間に抜けるヒットを打った。3 塁走者はホームインし、外野手は必死に走って打球に追いつき、3 塁を廻って本塁に向かっている 2 塁走者を刺そうとした送球が 3 本間の途中を横切りボールデッドゾーンに入ってしまった。この送球を野手がリリースしたときには、すべての走者と打者走者は塁を 1 つ以上廻っていたので、審判員が集まって走者をどこまで進めるのかを確認して、1 塁走者もホームインを認めて 3 点、打者走者を 3 塁において試合を再開した。

ダブルヘッダーの第一試合で完投した投手が、第二試合では三塁手として守備についていた。この三塁手のアンダーシャツはチームの他の選手と同色の黒色だったが、両手首の外側に今はやりのメーカーのロゴマークが入っていた。第一試合で完投し汗をかいたために当然アンダーシャツを着替えたのだろうが、もし、投手で両手首にメーカーのロゴマークが入っているアンダーシャツでマウンドに立った場合、野球規則ではどのように記載してあるのかを見てみよう。

3.03 ユニホーム

(b) アンダーシャツの外から見える部分は、同一チームの各プレーヤーが全員同じ色でなければならない。

投手以外の各プレーヤーは、アンダーシャツの袖に番号、文字、記章などをつけることができる。

アンダーシャツについては、半袖、長袖、七分袖の違いは良いが同色でなければならない。投手はアンダーシャツにメーカーのロゴの入ったものは禁止という事である。MLB の映像を以前見ていたとき、投手がチームの選手とは異なる赤色の長袖アンダーシャツを着てマウンドに上がってきたので、審判員に注意を受け、袖をハサミで切りユニホームから見えないようにさせられていた光景があった。投手は野手とは異なり規制が厳しい。アンダーシャツの片腕をまくって左右の長さが異なるようにすることも厳禁である。

最近、守備への妨害についての問い合わせがよくある。試合の中で守備者への妨害が起こるケースが多発しているようだ。そこで、守備への妨害について簡単にまとめてみると、

守備への妨害は、打球処理に対する妨害とその他の妨害に分かれる。

- ① 打球処理をしようとしている野手への妨害は「**守備優先**」であるため、
故意であろうがなかろうが妨害が宣告される。また、打者走者が併殺防ぐために故意にフェアの打球を蹴ったりすれば、打者走者だけでなく本塁に最も近い走者もアウトになる。
- ② その他の妨害としては、送球を捕る、送球をする、タッグをするなど打球処理以外の野手の行為に対する妨害やバットボーイなどの妨害に分けられる。これは**故意である場合にだけ妨害が宣告される**。故意については「意図的に(わざと)妨害をする」という事である。避けようとしたが避けきれなくて妨げてしまった場合には適用されない。プレイによっては走者が併殺を意図的に防ぐための妨害であれば、その走者だけでなく打者もアウトになる。

大きな違いは①は故意でなくても妨害が成立し、②は故意の場合だけに成立するものである。②で難しいのは故意か否かである。だから我々審判員は故意と判断するかどうか迷う場合がある。その場合は、プレイが止まってからクルーで相談して最終的な決断をしなければならない。

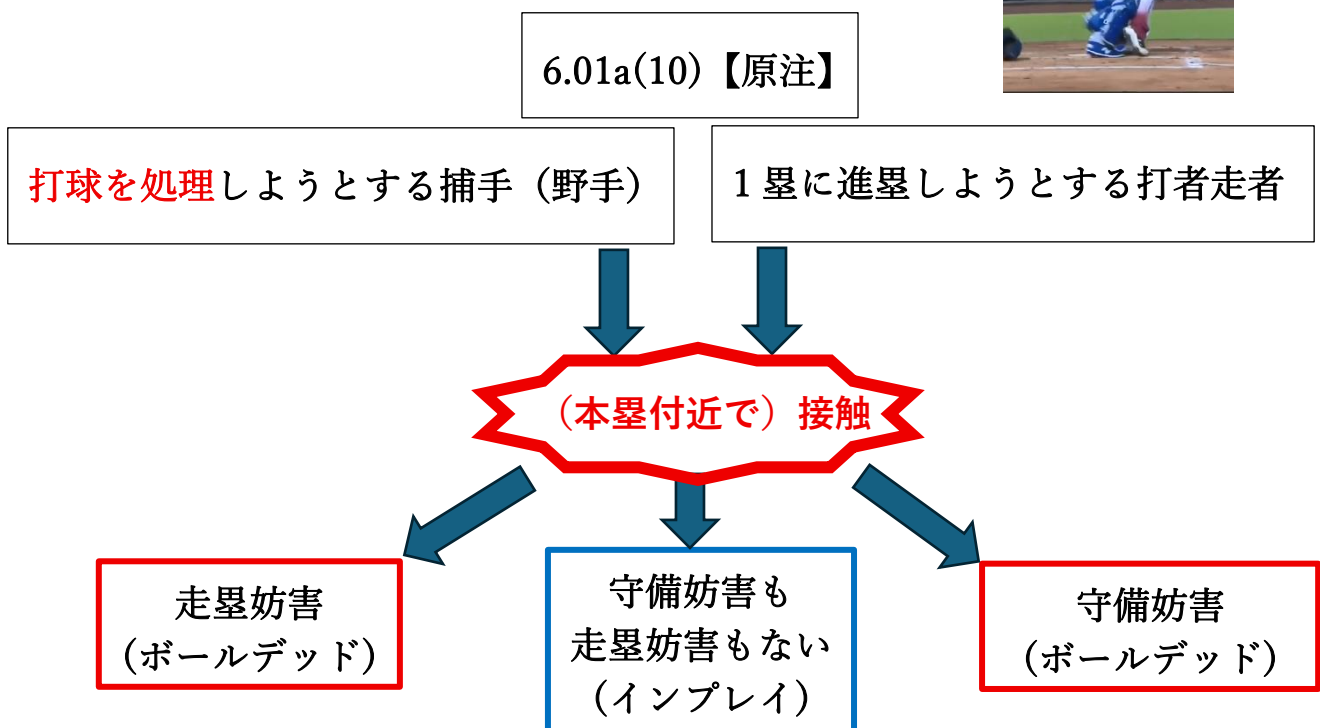
ただ、本塁付近での捕手と打者走者の出会いがしらの接触など例外的事例もあるので、このケースについては7月の研修会で取り上げることにしたい。

2025/06/15

YouTube 動画を観ていると、アメリカの高校生の試合の映像があげられていた。走者 1・3 塁で、1 塁走者が外野へリードをとり、ボールを持った内野手が近づくとベースと走者を結ぶラインを外野方向に逃げ（ルール上ラインアウトにならないだろうと）、野手をダイヤモンドから遠ざけて、その間に 3 塁走者に本塁を狙わせるという作戦が横行しているようである。これに似た様な場面が走者 2 塁でもあったようで相談の電話がかかってきた。そもそもラインアウトのルールは、タッグされようとする走者がそれを逃れるために延々と走り続けたら、その間に他の走者が進塁してしまうことになりかねない。これを防ぐためにつくられたルールでもある。タッグから逃れるために、塁と走者を結んだラインから 3 フィート（約 90cm）離れたら、アウトになるこのルールはあくまでも塁に向かって進むまたは戻るという暗黙の理解があって成立している。ラインに沿っていても塁から背を向けて離れていくことは走塁を放棄することを意味する。審判員が走者に走塁放棄でアウトを宣告すべきだと考えるがどうであろうか。

7 月の研修会における動画学習のポイント

この学習では、1 塁に向かう打者走者と打球処理をしようとする捕手との接触について、どうジャッジするのかを確認してもらった。これをわかりやすく図にすると以下のようになる。

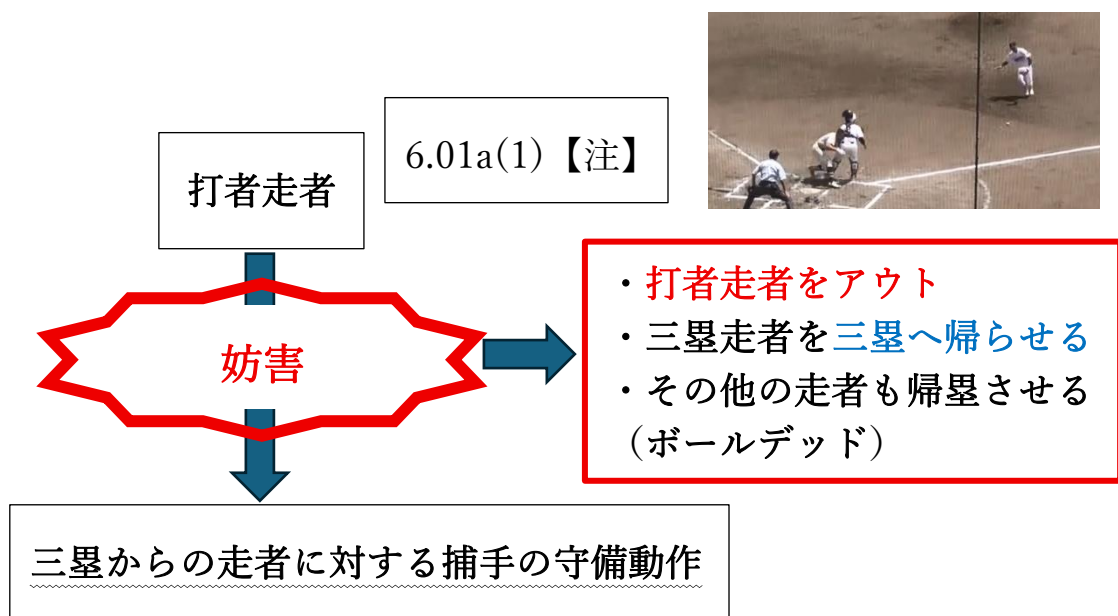


上図の審判員のメカニクスは、
走塁妨害・・・「タイム」、右手で捕手をポイントして「ザッツ オブストラクシ
ョン」打者走者を右手でポイントして「ユー ファウストベース」
とコール。

守備妨害も走塁妨害もない・・・セーフのメカニクスをしながら「ザッツ ナシン
グ」とコール。

守備妨害・・・「タイム」、右手で打者走者をポイントして「ザッツ インターフ
ェアランス」、アウトのメカニクスをして「バッターランナー、ア
ウト」とコール。

また、打者走者が三塁からの走者に対する捕手の守備を妨害した場合は、
6.01a(1)【注】① 「第3ストライクの宣告を受けただけでまだアウト
になっていないか、または四球の宣告を受けて一塁へ進むべき**打
者走者**が、三塁からの走者に対する捕手の守備動作を明らかに妨害
した場合は、その**打者走者をアウト**とし、**三塁からの走者は、投手の
投球当時占有していた三塁へ帰らせる**。その他の各走者も、同様に帰
塁させる。」



上図のように対応しなければならない。

また、打者走者と走者の両方をアウトにする場合は、6.01a(7)に以下のよう
に記されている。

「打者走者が、明らかに**併殺を行なわせまいとして故意に打球を妨げる**か、ま
たは**打球を処理している野手を妨害**したと審判員が判断したとき、審判員は、
打者走者に妨害によるアウトを宣告するとともに、どこで併殺が行われようと
していたかには関係なく、本塁に最も近い走者に対してもアウトを宣告する。
この場合、ボールデッドとなって他の走者は進塁することはできない。」
打者走者と走者の両方をアウトにするのは、**送球を妨害するのではなく赤字の**
場合に限られるのである。

高校野球の地方大会準決勝で試合が 50 分間中断

2025/7/25

友人から、表記のタイトルにある出来事があったとLINEが入った。それ
は、ある県の準決勝で、後攻チームが0-3とリードした6回裏、2死二・三塁
で打者の打球が二遊間に転がった。守備をしようとした遊撃手に塁審が衝突
し、守備側から守備妨害の指摘があり、審判団で協議が行われ、「審判員の妨
害でボールデッド、2死満塁から試合を再開する」というアナウンスがあっ
た。しかし、審判長から規則を改めて確認するように審判団4人に指摘があ
り、再び審判団で協議。結論がなかなか出ず、両チームの選手がグラウンドから
ベンチに引き上げ、試合は約50分中断したというものだった。結果的に判定
は、「審判員の妨害は不適用。インプレイとして三塁走者のホームインは認め
られ、2死一・三塁から再開」とされた。県大会の準決勝でルール適用を間
違える出来事が起きたことに正直驚いてしまった。

審判員の妨害は以下の2つしかないので、よく覚えておこう。

5.06c(2)・・・盗塁を阻止しようしたり、塁上の走者をアウトのしようとする捕
手の送球動作を球審が妨害した場合や投手への返球を妨害した場合。

5.06c(6)・・・内野手(投手も含む)に触れていないフェアボールが、フェア地域で
審判員に触れた場合。あるいは内野手(投手を除く)を通過していないフェアボ
ールが審判員に触れた場合。

球審が捕手の送球を妨害

2025/8/2

右打者のとき、2塁走者が3塁に盗塁を試みた。球審がボールをコールした直後、捕手は3塁に送球をした。その時に捕手の投げ手が球審のマスクに触れたが捕手は何事もなかったかのように送球したのである。このようなとき球審はどうすればよいかは、先ほどの5.06c(2)を確認済みだろうから、回答は容易であろう。ちなみに2塁走者はタッグアウトであった。

最終回の裏の出来事

2025/8/2

1点をリードされた最終回の裏の攻撃で同点とし、1アウトから勝ち越しのランナーが1塁に出た。次の打者が左中間を抜く長打を打ち、送球がホームに返球される前に1塁走者はホームインした。球審は、それを見て「集合」と呼びかけ両チームが整列し、球審が試合終了を宣告した。我々が行っているグラウンドは外野フェンスがないところが多く、ランニングホームランが出やすい為、このような場面に出くわすことがよくある。このようなときは、球審は集合をかけてはいけない。何故なら、走者に対する空過のアピールがあるかもしれないからだ。このようなときは黙って自然発生的に集合してくるのを待つべきである。更に言うと、1アウトのケースで1塁走者がホームイン、打者もホームインしてしまうケースもある。この場合は、塁審は打者の触塁もしっかり確認することが肝心である。何故なら、空過アピールで1塁走者がアウトになってもまだ2アウトなので、勝ち越しの可能性が残るからである。また、2アウト1塁のケースで、打者が途中から走るのをやめて整列しようとするケースもあるかもしれないがこのようなときは、1塁走者が本塁を踏む前に打者の走塁放棄をとるのは避けるべきである。揉める可能性があるからである。